



■読谷村社会福祉協議会へ寄付金贈呈



1月8日、校長室で読谷村社会福祉協議会会長さんへ寄付金の贈呈式を行いました。寄付金は、1年3組深貝恭悟君と3年7組HR会長代理の野原正椰君からは文化祭の売上金で、生徒会会長喜友名朝輝君からは生徒会赤い羽根共同募金での寄付金で合わせて総額、157,606円でした。福祉協議会会長さんから、読高の皆さんの善意に対し「大変感謝いたします」との言葉を頂きました。協力ありがとうございました。

■家庭科の授業で「認知症サポーター養成講座」



12月3日(月)～12月7日(金)の間に3年生文系クラスを対象とした「認知症サポーター養成講座」が行われました。超高齢社会の課題のひとつに「認知症」があります。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの一環として読谷村役場福祉課地域包括支援センターを中心に養成講座を行い、講師の「サポーターキャラバン」の皆さんは読谷村内で高齢者に関わる仕事に従事しています。講座の前半は認知症について脳機能の変化や症状などの知識を学び、なかばには、望ましい高齢者の対応について討論形式で考えを伝え合いました。後半には実際に生徒が高齢者役や対応する学生役を演じ(ロールプレイ)、認知症を持つ高齢者に対する望ましい対応について学ぶことができました。受講した生徒は「認知症サポーター」の証であるオレンジリングが提供されています。講座の感想には「自分のおじいちゃんにもっと優しく接してあげたい」「地域で認知症の症状がある高齢者に会ったら、今日学んだことを生かしたい」等がありました。昨年度から家庭科の授業で行っていますが、忙しい時間を割いてボランティアで講師を務めるキャラバンの皆さまに改めて感謝申し上げます。(家庭科屋嘉亜希子)

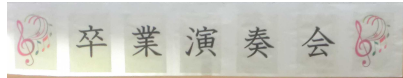
■「郷土の音楽」選択生による施設訪問演奏



郷土の音楽のメンバー23名で「読谷の里」での訪問演奏に行ってきました。普段なかなか体験できない交流ができていい経験になりました。

ただ弾くだけでなくその場を楽しみながら演奏することで、よりよい雰囲気になるのだと感ずることができました。おじいちゃんおばあちゃんたちが笑顔になって、元気に歌ってくれたので楽しくできました。今まで練習してきた曲をさらに上手くできるように、またこれからも弾く機会を作れたらいいなと思いました。(3年1組 新川ここも)

■3年音楽Ⅲ卒業コンサート



1月22日、音楽Ⅲ選択の生徒19名がそれぞれ好きな楽器、ピアノ、ギター、マリimba、歌・三線で演奏していました。小さい時からピアノの練習をしている上級者は3名程で、かつて楽器に触れた経験のある中級者や初心者が殆どということでした。半年かけた成果の発表でしたが、短い期間で良く頑張ったと思います。これからも是非、楽器演奏は続けてください。

楽器は一生の友達になります。

■本の紹介コーナー

書名：日本語と私
著者：大野晋



〈自伝の傑作である。読んで釣銭が来るとは、こういう本のこと。〉と井上ひさしが本書の「解説」で絶賛している。

受験のころ、父親と知り合いの中学校教師宅に上級学校選びの相談に行く。その帰り際、先生の教え子の一高生が別の部屋にいた。〈襟にSの記章をつけていたから理科の生徒だったろう。その姿、様子を一目見た瞬間、何かさだかには言えないが、「僕も一高に行きたい」という気持ちが胸を走った。〉一高とは第一高等学校で東大教養部の前身。受験の結果、二十八人中二十八番で合格。秀才に囲まれた寮生活が始まる。同室の松本君とフランス人ブルニエ先生との会話。〈松本はトントントンプルアンと流れるように発音〉していた。また、〈同室に後藤守邦がいた。(中略)数学の問題を作って受験雑誌に送ったりして、小遣をかせいでいた〉。数学者になり「群論の後藤」といわれる。〈メンデルスゾーンの『ヴァイオリン協奏曲』を弾くという男がいる〉などなど。授業中生徒が、今までの教え子の中で英語が一番できたのは誰かと質問。「そうだねえ。芥川はできたね。〈芥川龍之介という名前が現れて、生徒たちは、自分らが衆愚なのだあらためて気づき、教室はしんとした〉。明治維新以降、日本はヨーロッパを追いかける。そんな中、逆に著者は〈日本とは何であるのか〉を知りたく、日本語すなわち古文の勉強を始める。サークル「国文学会」の委員となり、「万葉集連講」という企画を立て講師の依頼に奔走。〈折口信夫氏に頼むときには同室の平井隆太郎と一緒に出掛けた。平井は江戸川乱歩の息子〉、〈齋藤茂吉氏には私は一人で頼みに〉行った。『茂吉全集』の〈日記に「一高生来る」とある。この学生が私であることは私だけに分かることである〉。面白い。後年、日本語と南インドの言語の一つであるタミル語が同系語であるとの学説を発表。縄文時代後期に、タミル語とその文明が日本に入り弥生時代を作ったという。同著者の『日本語の起源(新版)』に詳しい。研究上での経験として〈一つの問題を解く途中でふっと湧き出た見込みが正しいときには、その見込みの線の上にデータの方から飛び込んでくる〉〈見込みが悪いとデータの方で反乱を起す〉と書いている。名曲を残す作曲家が「メロディーが降りてきた」と言う時があるが、それに似た感覚のように思う。

■2月の行事

- | | | |
|----------------------|-----------------------------|----------|
| 1日(金) 3年生を送る会 | 14日(木) 学年末考査② | 顔写真撮影2年生 |
| 推薦入学内定者オリエンテーション | | 顔写真撮影1年生 |
| 5日(火) 生き生き活性化指定研究発表会 | 15日(金) 学年末考査③ | |
| 6日(水) 一般入試願書受付 | 16日(土) ベネッセセンター早期模試 | |
| 7日(木) 一般入試願書受付 | 17日(日) ベネッセセンター早期模試(2年特進必修) | |
| 8日(金) 3年生追試 | 20日(水) 統一LHR歌の練習 | |
| 11日(月) 建国記念の日 | 22日(金) eホートフォ入力1年 | |
| 12日(火) 3年生進学準備期間 | 28日(木) 卒業式場作成予行 | |
| 13日(水) 学年末考査① | 生徒会卒業式セレモニー予行 | |